

神戸新聞読者クラブ

奥さま手帳

毎月、兵庫を再発見。

2010年
4月号
NO.441

春です、スイーツ満開。



いくつか言えますか、
兵庫のゆるキャラ。



「ハッピー、ラッキー、ウイスキー」で笑顔の練習。最後の「イ」は口角を上げてはつきり。

「言葉には力があります。人と人をつなげていくのは、「ありがとう」や「おかえりなさい」といった何気ない日常の言葉です」。フリーアナウンサーの川邊 暁美さんが語る言葉は明快で、聞く人に優しく響く。日々の暮らしや仕事の上で話すときに一番大切にしているのが温かい言葉で話すということ。「相手への思いやりや必要な言葉を届け、思いを共有する。そんな言葉のキャッチボールが会話の基本です」。

心を伝えるためには声や表情のちよつとしたテクニックもある。「いつもより少し大きな声で、笑顔だと相手に分かるように口角を上げ、気持ちを含めて」。大切な人に話すように語りかけ、相手に届くように工夫することで、コミュニケーションはより豊かになる。「言葉を磨くことは自分を磨くこと。自分の声や言葉で伝える力は生きる力につながります」。

名人 4



川邊さんは谷川俊太郎の絵本「あいうえおの絵本」を使い、ウォーキングしながら発声練習も。

会話のヒントは「きみにはなしたい」。

覚えておきたいキーワードは、[き]共通項・季節、[み]見た目(服装・髪色)、[に]ニュース(家族・地域行事)、[は]流行(話題のお店・マイブーム)、[な]仲間・知人のこと、[し]趣味・スポーツ、[た]旅・食べ物、[い]生き方・健康法など。



言語学者の外山滋比古さんは「ひょうごのこころ」の中で、「マイフェアレディ」は言葉の大切さを教えていると書いている。川邊さんもお薦めの作品。

「言葉のOFFICEかのかん」代表 川邊 暁美さん

1987年NHK神戸放送局ニュースキャスターを経て、兵庫県広報専門員、話し方、ビジネスマナー講師など幅広く活動。2008年「言葉のOFFICEかのかん」開設。フリーアナウンサー、神戸女学院大学非常勤講師。

【川邊さんのセミナーの予定】
西宮で「心を伝える朗読の世界」の講座、神戸で「思いを伝える話し方」の講座など。詳細はHPを。
<http://www.kotonoha-canon.com/>

会話のマナーの基本は、相手に関心を持って、相手中心に話を聞いていくこと。「言葉というように言葉には魂がこもっています。声と言葉は一人ひとりの宝物です」と川邊さん。



言葉と感性を磨いて心に響く話し方を学ぶ。

A 心に響くあいさつは「声で握手」。

【こ】ちらから、【え】が
おで、【で】きるだけ明
るい声で、【あ】いてに
届くように大きな声で、
【く】ふうして(相手の
喜ぶプラスαの一言を
加える)、【しゅ】うかん。

C 美しい言葉は本からも学ぶ。

読書中に心にとまった好きな言葉を、使えるようにメモしておくで会話力アップ。「子どもが育つ魔法の言葉」(ドロシア・ロー・ノルト著)などもお薦め。

豊かな会話のために実践したいテクニック。

B 声と言葉を豊かにする習慣を。

3つのポイントは――
①いつも自分の声と言葉を意識して発する。
②心と言葉の感性を磨く心掛け。
③話す時はいつも大切な人に話しているつもりで。

D 会話上手は聴き上手。

聴き上手のポイントは視線→相手と目線の高さを合わせ、優しい目で。表情→関心を示す表情、笑顔に向けて。態度→うなずき、相づちを打ち、前傾姿勢で聴く。